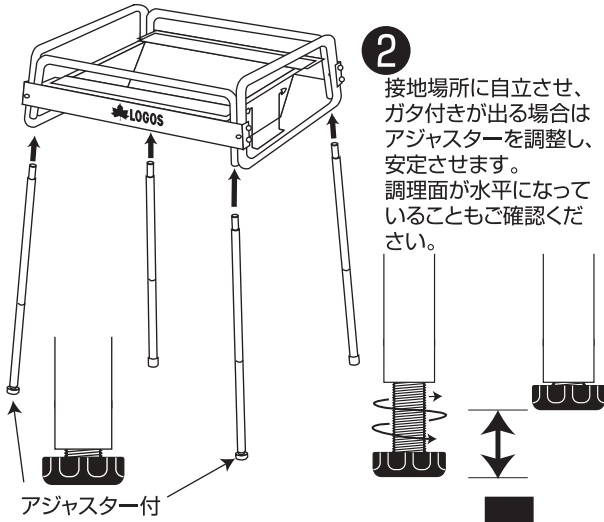


組み立て手順

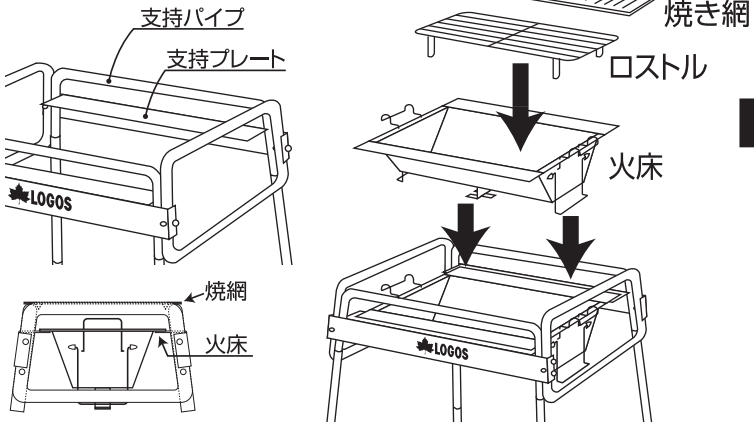
1 脚パイプをボディ四隅の脚接続部にさし込みます。この時グリル正面側の2本の脚はアジャスター付にしてください。

※パイプをさし込む際は手を挟まないように手の位置に十分ご注意ください。

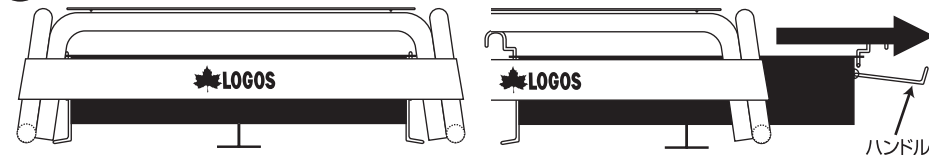


2 接地場所に自立させ、ガタつきが出る場合はアジャスターを調整し、安定させます。調理面が水平になっていることもご確認ください。

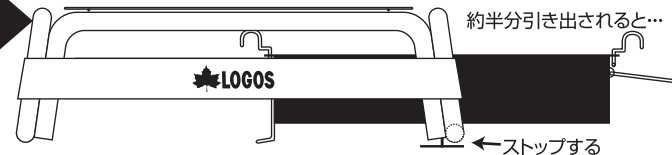
3 火床を本体の支持プレートに引っ掛けるようにセットします。火床内にロストルを乗せ、セットします。焼き網を2本の支持パイプの上を渡すようにセットしてご使用ください。尚、焼き網と鉄板は状況により使い分けてください。



4 1. 調理時の炭の継ぎ足しは、本体側面より火床を引き出して、行ってください。



2. 火床を約半分引き出した時点でストッパーにあたり、それ以上は引き出せません。禁止!絶対に半分には引き出さないでください。火床が抜け、大変危険です。



3. 火床の反対サイドに炭を継ぎ足す場合は本体の反対側より火床を引き出して、行ってください。



4. 火床両側面の引き出し用ハンドルは、火床の引き出し時以外は、必ず真直ぐ下に下りた状態にしてください。火床が誤って滑り出てくる事を防ぐストッパーの役割をはたします。

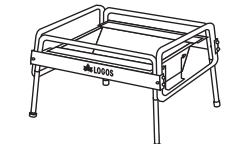


5 高さ設定は脚パイプの使い分けにより2段階に設定できます。

ハイポジション:
●脚パイプ(長)+脚パイプ(短)



ローポジション: ●脚パイプ(短)



注意!脚先端のアジャスターの位置にご確認ください

使用上の注意

製品には鋭利な部分があります。分解、組み立て、着火、消火、手入れの際は必ず革手袋を 洗浄時はゴム手袋を着用し、ケガをしないよう十分にご確認ください。

- 禁止! 使用前に必ずパーツの破損、溶接外れ等が無いかご確認ください。破損が見つかった場合はご使用にならないようお願い致します。
- 禁止! 着火後にグリルの移動は行わないでください。また、使用中のグリルは素手で触らないでください。
- 禁止! 着火後は、炭がはぜたり火の粉が飛び場合がありますので、顔などを近づけることはお止めください。また、燃えやすいものの周りでの使用もお止めください。
- 禁止! 着火剤や燃料として、ガソリン、灯油、ガス、アルコール等は、絶対に使用しないでください。危険です。
- 禁止! 屋内やテント内又タープの下では使用しないでください。
- 禁止! 使用中はお子様やペットを器具の周りで遊ばせないでください。
- 禁止! 火床を引き出す際、ストッパーにより火床は半分以上引き出せないようになっています。絶対に半分以上は引き出さないでください。火床が抜け、落下し大変危険です。
- 警告! ロゴマークはプリントです。爪や鋭利なもので擦ると剥がれるため取扱いや洗浄にはご注意ください。
- 警告! 組立ては説明書をよく読み、正しく行ってください。不十分だと転倒する恐れがあり大変危険です。
- 警告! 火床の高さ調節時や引き出し動作、調理、炭の継ぎ足し時等、取扱いの際は必ず革手袋を着用し、火床に誤って触れないようご注意ください。
- 警告! 火床両側面の引き出し用ハンドルは、引き出し時以外は、必ず真直ぐ下に下ろしてください。下ろす事で、火床が誤って滑り出てくる事を防ぐストッパーの役割をはたします。
- 警告! 使用後の残り火の始末は、完全に燃え尽き、グリルや火床が冷えたことを確認した後に灰処理、撤収の作業を行ってください。
- 警告! 消火のために器具に水をかける事は厳禁です。急激な温度変化により器具の変形や、高温の水蒸気が発生し、火傷の恐れがあります。
- 警告! 洗浄時はゴム手袋を着用し、鋭利な部分でケガしないようご注意ください。
- 警告! 火床の高さ調節は、必ず革手袋を着用し、火傷をしない事を確認した上で、慎重にフックを片側ずつ掛けて行ってください。
- 注意! 変型やひどい変色につながるため燃料の入れ過ぎにご確認ください。
- 注意! 鉄板及び焼き網の使用後は、食べ物のカス等をきれいに取り除き、十分に乾燥させた上で食用油を塗ってから冷暗所に保管してください。
- 注意! 炭の入れ過ぎは、火床のスライドの妨げとなります。ご注意ください。

部品構成表

本体	(1)	ロストル	(1)
脚パイプ(短 アジャスター付)	(2)	焼網(大)	(1)
脚パイプ(短)	(2)	焼網(小)	(1)
脚パイプ(長)	(4)	鉄板	(1)
火床	(1)		

お使いになる前に...

- 鉄板及び焼き網を洗浄する。 ●耐熱性グローブを着用する。
- 1. 固形着火剤は先に着火剤に点火し、その上に空気の通り道を作りながら炭を積み上げる。(ジェル状着火剤は炭をロストルに置いて、最下部の炭上に塗る。ジェル状着火剤は非常に危険、継ぎ足しは厳禁)
- 2. 全ての炭が着火状態なのを確認した後、ロストル上にまんべんなく広げる。所々炭が二重に重なる位が適量。
- 3. 鉄板使用時の炭は少量(3、4個)にすること。変形の原因になります。
- 4. 備長炭の着火は、着火状態の木炭の上に置いて着火すること。いきなり備長炭では着火しません。また、備長炭は着火時に爆ぜるので注意すること。必ず焼網でカバーしながら着火し、離れたところで、見守ること。

6 火床の位置は、お好みにより高さを2段階に設定できます。火床を上段にセットする方法は...

注意!まず、革手袋を着用し、炭や炎の状態が火傷の恐れが無い事を確認する事
注意!炭がこぼれ落ちない量である事を確認する事

